
雨宿り。

はなちょこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨宿り。

【Nコード】

N3752N

【作者名】

はなちよこ

【あらすじ】

ある男性が雨宿りをしていると・・・・・・・・。。

「まいったなあ……」

そう言つて僕は空を見上げる。

突然、降り出した雨。

傘を持っていない僕は、近くにあった店の軒先で雨宿りをすることにした。

店はシャッターが閉まっている。ここなら店側の邪魔にはならな
いだろう。

僕は、長い溜息をついた。

雨なんか大嫌いだ。

良いことなんて一つもないじゃないか。うつとおしいだけだ。少
なくとも僕らサラリーマンにとっては。

すると。

女性が走ってきて、僕の隣に立った。

彼女も雨宿りだろうか。

僕は女性の横顔をチラ、と見みた。

綺麗な横顔。

思わず見とれてしまうほどだ。

「雨、なかなか止みませんね」

女性はそう言つてこちらを見た。

「え？ ああ、本当ですね」

突然、話しかけられた僕はそう返すのが精一杯だった。

鼠色の雲の隙間から太陽の光が覗いた。

さっきまで降っていた雨が嘘のようにやんだ。

「この後、なにかご予定があるんですか？」

女性は、空を見上げたまま言った。

彼女の綺麗な瞳に写りこむ、七色の虹。

「え？ 僕ですか？」

「はい」

「いえ！ 今日は特に何も予定がないので！」

「そうですか」

女性はそう言うとニッコリと微笑んだ。

そして。

ガラガラガラ。

驚いて後ろ見ると、閉まっていた店のシャッターが開いた。

看板を見ると「にじいろ宝飾店」と書かれてあった。

女性は天使のような笑顔を浮かべたまま言った。

「貴方のような若いお客様にはダイヤモンドをお安くしますよ」
やっぱり雨は嫌いだ。

< 終 >

（後書き）

読んでくれてありがとうございます。
思いついたので書いてみました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3752n/>

雨宿り。

2010年10月9日13時43分発行